

株式会社日本格付研究所（JCR）は、以下のとおり信用格付の結果を公表します。

## 京都信用金庫（証券コード：-）

### 【据置】

長期発行体格付	A-
格付の見通し	安定的
短期発行体格付	J-1

### ■格付事由

- 京都府京都市に本店を置く資金量約2.9兆円の信用金庫。京都市を中心に店舗網を有しており、府内での預貸金シェアは上位に位置する。また滋賀県や大阪府北部にも多くの店舗を持つ。格付は、安定した事業基盤を背景とした底堅い収益力や分散した貸出ポートフォリオを踏まえた資産の質などを反映している。近年は与信費用が増加傾向にある。また、その他有価証券の評価損が実質的な資本水準に与える影響は小さくない。これらの動向に留意するとともに、各種施策がコア業務純益の一層の拡大につながるかフォローしていく。
- コア業務純益（投資信託の解約損益を除く）は21/3期以降50億円台半ばを維持している。一方、ROA（コア業務純益ベース）は貸出金利回り低下の影響などで0.1%台半ばまで低下している。人件費や預金利息の増加が下押し圧力となるが、事業性貸出や住宅ローンの双方が伸長しているほか、フィービジネスの取り組みが進みつつあり、当面は現状程度のコア業務純益を維持可能とJCRはみている。注力する課題解決型金融やエリア営業戦略などの取り組みがさらなる収益性の向上に結びつくか注目していく。
- 金融再生法開示債権比率は23年12月末で4.82%とやや高い。開示債権の増加に加え、その他要注意先債権も増加しているが、従前より小口分散が効いており、与信先の実態を踏まえた保守的な引当が実施されている。与信費用はコロナ禍以降、ランクダウンなどにより増加している。23/3期以降は予防的な引当実施も相まって、コア業務純益対比8割超と高まっている。外部環境が不透明なことから、引き続き与信費用の動向には注意が必要である。
- 有価証券運用はポートフォリオの8割超を国内債券が占めており、保有債券にかかるデュレーションがやや長く、金利リスク量は資本対比で大きい。ただ、国内金利の上昇を見据え、長期債券の入れ替えを進める方向にあることから、金利リスク量の拡大は抑制されていくとみている。金利上昇に伴う債券価格の下落を主因にその他有価証券は評価損となっているが、足元では縮小しつつある。
- 23年12月末の単体コア資本比率は8%台前半。その他有価証券の評価損などを調整したベースでは低下しており、格付対比でやや見劣りする。貸出金を積み上げる方針だが、内部留保の蓄積や有価証券運用でのリスクアセットコントロールにより、一定の調整後コア資本比率を維持できるか留意していく。

（担当）坂井 英和・山本 恭兵

### ■格付対象

発行体：京都信用金庫

### 【据置】

対象	格付	見通し
長期発行体格付	A-	安定的
対象	格付	
短期発行体格付	J-1	

## 格付提供方針等に基づくその他開示事項

1. 信用格付を付与した年月日：2024年5月15日
2. 信用格付の付与について代表して責任を有する者：宮尾 知浩  
主任格付アナリスト：坂井 英和
3. 評価の前提・等級基準：  
評価の前提および等級基準は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に「信用格付の種類と記号の定義」（2014年1月6日）として掲載している。
4. 信用格付の付与にかかる方法の概要：  
本件信用格付の付与にかかる方法の概要は、JCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/>) の「格付関連情報」に、「コーポレート等の信用格付方法」（2024年2月1日）、「銀行等」（2021年10月1日）として掲載している。
5. 格付関係者：  
(発行体・債務者等) 京都信用金庫
6. 本件信用格付の前提・意義・限界：  
本件信用格付は、格付対象となる債務について約定通り履行される確実性の程度を等級をもって示すものである。  
本件信用格付は、債務履行の確実性の程度に関してのJCRの現時点での総合的な意見の表明であり、当該確実性の程度を完全に表示しているものではない。また、本件信用格付は、デフォルト率や損失の程度を予想するものではない。本件信用格付の評価の対象には、価格変動リスクや市場流動性リスクなど、債務履行の確実性の程度以外の事項は含まれない。  
本件信用格付は、格付対象の発行体の業績、規制などを含む業界環境などの変化に伴い見直され、変動する。また、本件信用格付の付与にあたり利用した情報は、JCRが格付対象の発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものであるが、当該情報には、人為的、機械的またはその他の理由により誤りが存在する可能性がある。
7. 本件信用格付に利用した主要な情報の概要および提供者：
  - ・ 格付関係者が提供した監査済財務諸表
  - ・ 格付関係者が提供した業績、経営方針などに関する資料および説明
8. 利用した主要な情報の品質を確保するために講じられた措置の概要：  
JCRは、信用格付の審査の基礎をなす情報の品質確保についての方針を定めている。本件信用格付においては、独立監査人による監査、発行体もしくは中立的な機関による対外公表、または担当格付アナリストによる検証など、当該方針が求める要件を満たした情報を、審査の基礎をなす情報として利用した。
9. 格付関係者による関与：  
本件信用格付の付与にかかる手続には格付関係者が関与した。
10. JCRに対して直近1年以内に講じられた監督上の措置：なし

## ■留意事項

本文書に記載された情報は、JCRが、発行体および正確で信頼すべき情報源から入手したものです。ただし、当該情報には、人為的、機械的、またはその他の事由による誤りが存在する可能性があります。したがって、JCRは、明示的であると黙示的であるとを問わず、当該情報の正確性、結果、的確性、適時性、完全性、市場性、特定の目的への適合性について、一切表明保証するものではなく、また、JCRは、当該情報の誤り、遺漏、または当該情報を使用した結果について、一切責任を負いません。JCRは、いかなる状況においても、当該情報のあらゆる使用から生じうる、機会損失、金銭的損失を含むあらゆる種類の、特別損害、間接損害、付随的損害、派生的損害について、契約責任、不法行為責任、無過失責任その他責任原因のいかんを問わず、また、当該損害が予見可能であると予見不可能であるとを問わず、一切責任を負いません。また、JCRの格付は意見の表明であって、事実の表明ではなく、信用リスクの判断や個別の債券、コマーシャルペーパー等の購入、売却、保有の意思決定に関して何らの推奨をするものでもありません。JCRの格付は、情報の変更、情報の不足その他の事由により変更、中断、または撤回されることがあります。格付は原則として発行体より手数料をいただいております。JCRの格付データを含め、本文書に係る一切の権利は、JCRが保有しています。JCRの格付データを含め、本文書の一部または全部を問わず、JCRに無断で複製、翻案、改変等を行うことは禁じられています。

## ■NRSRO登録状況

JCRは、米国証券取引委員会の定めるNRSRO (Nationally Recognized Statistical Rating Organization) の5つの信用格付クラスのうち、以下の4クラスに登録しています。(1)金融機関、ブローカー・ディーラー、(2)保険会社、(3)一般事業法人、(4)政府・地方自治体。米国証券取引委員会規則17g-7(a)項に基づく開示の対象となる場合、当該開示はJCRのホームページ (<https://www.jcr.co.jp/en/>) に掲載されるニュースリリースに添付しています。

## ■本件に関するお問い合わせ先

情報サービス部 TEL: 03-3544-7013 FAX: 03-3544-7026

株式会社 日本格付研究所

Japan Credit Rating Agency, Ltd.  
信用格付業者 金融庁長官(格付)第1号

〒104-0061 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信ビル